

# 教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	まつもと だいすけ 松本 大輔	所属・職名	子ども学部 子ども学科・講師
専門領域	教育学、教科教育学（体育科教育）、体育心理学	学位称号	博士（教育学）.2011（平成23年）
最終学歴	2011年（平成23年）東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）修了		
資格・免許等	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育） 日本バスケットボール協会（JBA）公認D級コーチ		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	「体育科指導法」、「体育」、「ウェルネス・スポーツ」、「保育内容指導法（健康）」、「子ども学演習」、「基礎演習あすなろう」、「小学校教育実習指導」		
教育方法の実践例	①教育方法の実践例 「体育科指導法」の講義においては基礎理論の講義を踏まえ、模擬授業を経験させることで実践能力を高めていくように構成した。また、授業分析法についての演習を行い、模擬授業の中で実践することで反省的実践能力の向上に役立つように工夫した。さらに模擬授業で用いた指導案は指導案集として冊子にして配布した。		
教材の開発	②教材の開発 著書：「誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり」		
教育改善活動等	③子ども学科小学校教育実習部会メンバーとして資料作成、学生面接等に当たった。		
職務上の実績に関する事項			
なし			
研究業績等に関する事項			
《平成19年度～平成23年度》			
著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
〈著書〉			
1. 「誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり」	共著	教育出版	平成22年5月
2. 「動きの『感じ』と『気づき』を大切にしたい体づくり運動の授業づくり」	共著	教育出版	平成23年4月
〈学術論文〉			
1. 「体育授業における子どもの運動有能感の再検討」	単著	埼玉大学（修士論文）	平成19年3月
2. 「運動の集団化におけるワークショップ形式の授業に関する研究 ～新体操教材の開発に視点をあてて～」	共著	埼玉大学紀要教育学部 第57巻第1号 75-85頁	平成20年3月
3. 「ワークショップ形式の跳び箱運動における学びの解釈－質的研究法を用いて－」	共著	東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 第60集 131-141頁	平成20年10月
4. 「A New Focus For Physical Education in USA 米国体育における新しい視点」	共著	埼玉大学教育学部附属 教育実践総合センター 紀要第8号 101-112頁	平成21年3月
5. 「『授業の内からのアプローチ』による運動有能感－ワークショップ形式の授業を手がかりにして－」	共著	体育科教育学研究 第25巻 第1号 1-13頁	平成21年3月

6. 「相互作用の変化と体育授業における有能感—転換フェーズからの有能感の再考—」	共 著	学校教育学研究論集 第 22 号 53-66 頁	平成 22 年 10 月
7. 「Assessing the Relationship between Tactical Decision-making and Game Outcome in Physical Education」—戦術的な判断とゲーム成果を一体とした評価に関する研究—ゲーム構造論を基盤として—	共 著	日本スポーツ教育学会第 30 回記念国際大会 PROCEEDINGS 165-170 頁	平成 22 年 10 月
8. 「体育授業における有能感の再検討—環境との相互作用に着目して—」	単 著	東京学芸大学 (博士論文)	平成 23 年 3 月
9. 「多様な動きをつくる運動遊び」の指導方略に関する—考察～運動の意味生成に着目して～」	共 著	埼玉体育スポーツ科学第 7 巻	平成 24 年
10. 「テーマ学習によるネット型ゲームの児童の学びに関する—考察—児童の感想文の内容分析を通して—」	共 著	西九州大学子ども学部 紀要第 3 号	平成 24 年
〈学会発表〉			
1. 「運動有能感の再検討～情動論的アプローチの視点から～」	共 同	日本体育学会第 58 回大 会(神戸大学)	平成 19 年 9 月
2. 「体育授業における有能感の検討—環境との相互作用に着目して—」	共 同	日本体育学会第 59 回大 会(早稲田大学)	平成 20 年 9 月
3. 「気づきに着目した学びの変容の検討—児童のワークシートの内容分析を通して—」	共 同	日本体育学会第 60 回記 念大会(広島大学)	平成 21 年 8 月
4. 「気づきに着目した技能の変容からみた学習内容の検討—児童の感想文の内容分析を通して—」	単 独	第四回埼玉県体育学会 (埼玉大学)	平成 21 年 12 月
5. 「New Instrument for Assessing Performance In Game Observation Settings」 (ポスター発表)	共 同	2010AAHPERD National Convention and Expo (Indianapolis)	平成 22 年 3 月
6. 「『感覚的アプローチ』によるゴール型授業の実践提案」 (提案発表)	合 同	日本体育科教育学会第 15 回大会 (愛知県立大学)	平成 22 年 6 月
7. 「ワークショップ型の体づくり運動における学びについての—考察—動きのおもしろさの発見・共有のプロセスに焦点をあてて—」	共 同	日本体育学会 第 61 回大会 (中京大学)	平成 22 年 9 月
8. 「大学サッカー選手が自己パフォーマンス評価に用いる要因の検討」 (ポスター発表)	共 同	日本体育学会 第 61 回大会 (中京大学)	平成 22 年 9 月
9. 「Assessing the Relationship between Tactical Decision-making and Game Outcome in Physical Education」	共 同	日本スポーツ教育学会第 30 回国際大会(国立オリ ンピック記念青少年総合 センター)	平成 22 年 10 月
〈報告書〉			
1. 「体育授業における運動有能感に関する研究」	単 著	平成 19 年度東京学芸大 学大学院教育学研究科研 究生研究結果報告書	平成 20 年 3 月

2. 「教育実践力を形成するための『実践の省察ツール』開発の萌芽的研究」	共 著	平成 20 年度・21 年度東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科院生連携プロジェクト報告書	平成 22 年 5 月
3. 「スポーツ有能感を改善・向上させ得る指導法についての検討」	共 著	平成 21 年度・22 年度東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科院生連携プロジェクト報告書	平成 23 年 3 月
〈教育雑誌等〉			
1. 「『ワークショップ形式』による低学年の体づくり運動の授業」	単 著	体育科教育 第 59 巻第 1 号 38-41 頁	平成 23 年 1 月
2. 「『ワークショップ形式』の授業を導入した『多様な動きをつくる運動遊び』の授業づくり」	単 著	女子体育 第 53 巻第 1 号 32-37 頁	平成 23 年 1 月

研究助成等	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科研究プロジェクト 平成 20～21 年度(研究分担者) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科研究プロジェクト 平成 21～22 年度(研究分担者) 東京学芸大学「総合的道德教育プログラム」平成 23 年度(研究分担者)
-------	---

### 学会及び社会における活動等

<p>1. 所属学会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本体育学会</li> <li>・日本体育科教育学会</li> <li>・日本体育学会 体育心理学専門分科会</li> <li>・埼玉県体育学会</li> <li>・American Alliance for Health, Physical Education, Recreation and Dance</li> </ul> <p>2. 学会における活動, 役職等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県体育学会事務局員 (会長委嘱) (平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月)</li> <li>・日本体育科教育学会第 14 回大会大会実行委員</li> </ul> <p>3. 社会における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働大臣杯争奪 第 20 回記念日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会ボランティアスタッフ</li> <li>・平成 19・20 年度北本市教育員会北本市体力向上委員会委嘱「体力向上に関する研究」北本市立南小学校校内研修指導者「質的授業評価法について」</li> <li>・日本女子大学附属中学校バスケットボール部コーチ(平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月)</li> </ul>
---